

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は職員が常に目に入る場所に掲示しています。また毎月のカンファレンス時にチーム全体で読み上げ確認しています。また新規職員には理念を説明している。年1回個々に振り返り表に記入してもらい今後の方向性を見直しています。	運営理念については来訪者の目にも入るように玄関に掲示し、理解を促している。2ヶ月に1回行われる職員の内部研修会の席上、5項目からなる運営理念について周知徹底を図っている。また、異動してきた職員に対しては時間を割いて理念に沿った支援について説明し理解を深めるようにしている。家族対しては利用契約時に理念に沿った支援内容について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや小学校との交流会等はコロナの影響でここ数年中止していましたが今年度5類に移行したこともありボランティア活動を再開しています。	法人として区費を納め地域に親しまれる施設として活動している。そうした中、組長と地域の防災関係について意見交換をしたり、法人として地域の清掃活動や正月行事の「どんど焼き」等にも参加している。10月に行われる地区の小学校の音楽会に招待を受け、数名の利用者の見学を予定している。また、10月10日には「認知症サポーター養成講座」を小学校の子供達を対象に行い、オレンジリングを配ったりした。更に、専門学校生の職場実習の受け入れも行い、2校6名の学生が来訪し、傾聴中心に利用者との交流の機会を持っている。加えて、ボランティアの来訪も再開され、運営推進会議に合わせ「朗読ボランティア」も来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民への新聞は毎月配布している。今年は地域の夏祭りにブロック全体として参加した。小学校との交流を計画中でそれに合わせて認知症サポーター講座も開催することができました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響でここ数年書面会議を実施してきたが5類に移行となり5月より運営推進会議を対面にて実施している。委員の皆様より貴重な意見や助言を頂いています。	コロナ禍が長く続き書面での開催が続いていたが、5類への移行を受け5月より対面での会議を開催している。家族代表、組長、地域の洋服店主、民生委員、地域包括支援センター職員、食生活改善協議会関係者、法人所長、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、奇数月に開催している。防災対策について、地域交流、ボランティアについて、日々の様子の紹介、事故・ヒヤリハットなどの報告を行うとともに、意見交換等も行いサービスの向上に繋げている。また、食生活改善協議会からは「あんぱん」の差し入れを頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に運営推進委員となっていたとき意見を頂いています。事業所の状況を伝え意見、助言を頂いています。	地域包括支援センターとは利用者の入居相談を初めとし、「認知症サポーター養成講座」等の地域での交流活動を中心に連携を取っている。市高齢者活躍支援課とは事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じて連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応し行っている。市の「あんしん(介護)相談員」の来訪についても再開されたら申し込む予定である。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃からさりげなく見守り確保に努めています。全体会議で勉強会を年1回実施。今年度はリスクマネジメント研修に参加し内部研修では事例等取り入れて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。外出傾向の強い方が数名いるが、話を聞いたり外へ出て周りを散歩して納得していただいている。そうした中、きめ細かな所在確認に心掛け、職員1名が必ずホールにいるようにし、お昼の後は30分毎に、夜間は1時間おきに見回りをし安全確保に繋げている。また、転倒・転落の危惧のある方がおり、家族と相談して人感センサーを使用している。合わせて家族の希望で夜間のみ柵を使用している方がいたが現在は使用していない。定期的に行われる内部研修と月1回開かれる身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に学習会を実施しています。馴れ合いの言葉や不適切ケアなど言葉の虐待にならないように注意しあっています。会議の時、職員間で話し合い対応を考えています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に該当する利用者はいませんが常に新しい知識を得るようにしていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を十分に行い利用者ご家族からの質問に丁寧にお答えして理解していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見・要望を受け止め反映しています。またご家族が面会の際ご意見・ご要望を日々のサービスに取り入れるように努めています。	家族の面会については、現在、事前に連絡を頂き、2名まで居室にて短時間で受け入れている。ホームの生活の様子は毎月発行される「泉平ファミリー新聞」でお知らせし、利用者一人ひとりの状況については担当職員より日常の写真を添えた手紙を請求書に同封してお届けし喜ばれている。また、字が書ける利用者については家族宛の手紙を書いていただき同封している。コロナ前には開いていた家族会も中止の状況が続いていたが、今年は敬老会に家族を招待し、殆どの家族に式典とお楽しみ会に参加していただき、利用者とのひと時を過ごし感謝された。今後、新型コロナの状況を見ながら家族の集まる機会を計画したいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループ会議にて職員の意見や提案を議題に上げてチームで検討しています。	月1回夜勤者を除いた全職員出席で職員会議を行っている。法人からの連絡、カンファレンス、行事計画、業務内容の検討、毎月の接遇目標の達成状況の確認、意見交換等を行い業務内容の向上に繋げている。正職員対象に人事考課制度が始まり、管理者が個人面談を行って、今年度1年の目標を立て、実践繋がるようにしている。今年度は初年度につき試行期間とし、来年度から本格的に導入される予定となっている。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を今年度より施行し自分自身の目標を持ちレベルアップしていける環境があります。働き方改革で労働時間、有給休暇5日以上取得できるように働きやすい環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回のブロック全体会議で勉強会に参加しています。また外部研修に参加した際には復命報告を会議で実施している。毎月のグループ会議でケアの質を向上させていくよう定期的に検討しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しておりコロナも落ち着き外部研修にも参加しており同業者の意見も参考に資質向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い生活する上での意向・要望等を丁寧に聞き取り確認しています。施設内を見学して頂き納得した上で安心してサービスを受けられるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月お手紙と日頃の様子「泉平ファミリー新聞」を送付して近況をお伝えしています。また体調に変化あった時だけでなく普段の生活の中で相談したい時は連絡して相談しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人、家族に直接お会いしてしっかりと把握した上で相談しながら対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員生活を共にしている仲間と思いい人一人役割をもち活躍できる活動を考えて参加してもらっています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度に入り面会も再開され家族との絆を深めています。面会の際に撮影した写真やお手紙などもご家族に送付して家族等との信頼関係を深めています。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会も再開され親戚や友人などの方も来訪があります。年賀状や暑中見舞いはがきも作成して家族に送付して喜ばれています。	家族から許可を頂いている友人、親戚、お孫さん等の面会がある。理美容については3ヶ月に1回、馴染みの訪問美容師の来訪がありカットしていただいている。また、運営推進会議メンバーの洋服屋の出張販売もあり、欲しい物については事前に連絡しておいて持って来ていただいている。字が書ける方には自分で書いていただき、他の方は職員がお手伝いをして暑中見舞い、年賀状を作成して家族にお出しし好評を頂いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士の関係も大切にしています。関係が築けるような関りがもてるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動されても電話または文書で近況を聞いたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや希望を会話の中から変化に気づきチームで本人の意向を把握して会議等で検討しています。	殆どの利用者が意思表示の出来る状況で、若干名の方が難しい状況にあり問い掛けに対する表情や行動より意向を把握し希望に沿えるように取り組んでいる。日々の気づいた言動等は業務日誌に纏め情報を共有し、申し送りや出勤時に確認し合い利用者の意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で趣味、意向などを聞いて想いを把握してつなげています。また日々の関りの中で希望に沿った暮らしができるように検討しながら支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況、毎日のバイタル測定、健康チェックをして必要時カンファレンスを実施し支援方法をチームで考え検討しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員2名での担当制にしており、きめ細かな対応を心がけています。担当者は日々の様子を把握して毎月のグループ会議でカンファレンス、モニタリングを実施し利用者一人ひとりにあった支援を行っています。	担当職員は家族へのお便り、季節の衣類の入れ替え、足りない物の補充等を行っている。入居時は事前面接時の状況を参考に、暫定で1ヶ月のケアプランを作成している。担当者は日々の状況を把握し、月1回のカンファレンスでモニタリングを行い、管理者、リーダーとケアマネジャーがプラン作成を行っている。家族に対してはプランを郵送し、また、電話でプランの内容を説明し、希望を聞くようにしている。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年でプランを作成し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い一人ひとりに合った支援に繋げている。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日々の生活に関する職員の仕事等や個別記録、支援経過記録に記録して職員間で情報を共有してケアプランに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の急変時にはご家族の要望をお聞きして柔軟な対応を心がけています。通院や送迎等ご家族の要望をお聞きして対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でここ数年ボランティア等は中止していたが4月よりコロナが5類に移行となりボランティア活動も再開し敬老会もご家族、推進委員の方々を招待して実施することができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療、週1回の訪問看護師の来訪があり利用者の健康管理と医師と連携しています。緊急性の場合は病院と連携して受診等行っています。	入居時にホームとしての取り組みを説明している。現在、全利用者がホーム協力医の2週間に1回の往診を受けており、24時間対応となっている。合わせて契約の訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理をするとともに医師との連携を図っている。また、専門医の受診に際しては家族が受診にお連れしている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え月4回の訪問看護サービスを実施。健康管理、医療面等を相談して24時間体制で対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携をとり入退院時は家族、医療機関と密に情報交換、相談をとれるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取り対応については利用契約時に説明し同意を頂いています。また重篤期にはかかりつけ医、家族と相談、協議し今後の方向性を共有しています。今後看取り体制を進めて行く方向で職員研修等を実施しています。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明して同意書にサインを頂いている。食事や入浴が難しい状況になり重度化に到った時には家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合いの機会を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、併設の特別養護老人ホームへの住み替えを含めた支援に取り組んでいる。そうした中、住み慣れたホームで最期を迎えさせたいという家族の希望に合わせ、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援にも取り組んでいる。この1年以内に1名の方を看取り、開設以来8名の方を看取ってきた。今まで看取りに積極的ではなかったとの振り返りから、看取り体制を進めて行く方向で訪問看護師に講師をお願いし心構え等の看取り研修を実施している。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って緊急時にも速やかに対応できるように備えている。定期的に緊急連絡網の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の確認訓練を実施し防災への意識を高め取り組んでいます。また施設と地域住民と防災協定を結んでおりコロナの影響で防災訓練は実施できていないが防災懇談会は実施できました。	消防署へ届け出の上、防災訓練を実施している。2月には通報訓練を行い、6月には火災想定で消火器を使っの消火訓練を行った。また、10月には併設の特別養護老人ホームと合同で火災想定での避難訓練を行い玄関先まで避難をして人数確認を行った。避難の際に、利用者の「名前、歩行状態、連絡先」を明示した名札を首から下げ訓練を行っている。更に、スマートフォンの一斉配信を用いての緊急連絡網の確認訓練を抜き打ちで行い、防災意識の向上に努めている。備蓄として「米」「水」「レトルト食品」等が3日分準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや想いを汲み取り寄り添う言葉かけを心がけています。不適切な言葉かけにならないように内部研修を実施しています。	排泄介助には特に気配りをして大きな声は避け耳元でさりげなく誘うようにしている。また、優しく柔らかな声掛けをし、気持ちを和らげるようにしている。そうした中、「だめ」「ちょっと待って」等の声掛けにならないよう定期的にスピーチロックの研修会を実施し、気持ち良く過ごしていただくようにしている。呼び掛けは苗字に「さん」付けでお呼びし、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人ひとりの想いを汲み取り本人が「やりたい」という気持ちを大切にチームで検討、相談しながら働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や想いを尊重しながらキッチンの手伝い、散歩、畑仕事にも参加して頂いています。廊下にはソファを置き自由に会話できる場所を提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつもきれいでいたいという気持ちを大切に好みの洋服なども本人に聞きながら選びおしゃれができるように支援しています。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的な会話から食べたいメニューをお聞きしてメニューを考え作り方をお聞きしながら調理しています。畑で収穫した野菜を取り入れたメニューを考え収穫祭等も実施しています。	殆どの利用者は自力で食事ができ、一部介助の方と全介助の方が若干名という状況である。献立は利用者の希望を聞きながら3名の職員が季節感も考えながら2週間先の献立を考え、それに合わせ2～3日に1回食材の買い出しに出掛けている。利用者のお手伝いについては介護度が軽い利用者が関わり、力量に合わせ、リンゴの皮むき、大根おろし、お皿洗い、盛り付け等に参加している。また、「ニラ煎餅」「芋餅」「大根餅」等のおやつ作りにも楽しみながら行っている。7月にはホームの家庭菜園で栽培した「ジャガイモ」を使い収穫祭を行い、「カレー」を作り全員で味わって楽しんだという。また、時折利用者の希望を聞き「かつ丼」「クリームコロッケ定食」「ラーメン」等をテイクアウトして外の味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事形態に心がけ提供し食事チェック表に記入し飲み物は季節に応じた物を提供し水分不足にならないよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を日課とし、食後の歯磨き実施を声がけ見守りし口腔内の観察を行っています。何か不具合などあった場合は家族に状況説明して協力歯科医院に訪問診療お願いしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声がけでトイレ誘導したり、排泄表に記入し排泄状況の把握に努めています。自尊心を傷つけないようにさりげなく声がけして対応しています。	自立の方1名、他の方は一部介助の状況である。職員は利用者個々のパターンを把握しているが、排泄表も参考に定時の声掛けに合わせ、個々の状況を見て早めに声掛けをして排泄に繋げている。排便に付いては個々の状況に合わせ状態が悪い時には訪問看護師に相談して対応している。また、「お茶」「ジュース」「コーヒー」「スポーツドリンク」等を中心に1日1,000cc以上の水分摂取に取り組み排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認がとれれば排泄表に記入しています。散歩や室内歩行とり入れたり便秘予防に牛乳や果物も提供し水分不足にならないように心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	歩けない方でも入浴して頂けるようにリフト浴を導入し利用者皆様に入浴を楽しんでもらっています。また季節を感じて頂けるように「菖蒲湯」「ゆず湯」などもとり入れ楽しんでいきます。	全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。気持ち良く入浴していただけるよう浴室がリニューアルされ、浴槽も新しくリフト浴も導入されている。週2回の入浴を行っている。そうした中、体にかゆみのある方は週3回入浴されている。入浴拒否の方がいるが、誘い方に工夫をして入っていただいている。入浴剤を使用し、また、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等のお風呂で季節感も楽しんでいる。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のお気に入りの寝具、ベッドの配置等も配慮し室内環境、室内温度などにも気を配るように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時名前と日付等確認して本人に渡し内服するまで見守りしています。また薬についての相談はかかりつけ医に相談しています。利用者家族にも薬の内容、検査結果などは連絡、説明し定期的に送付しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしています。毎日当番を決めて食事の挨拶やテーブル拭きをして頂いています。趣味を生かして作品作りや季節の行事を考えて楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会再開となり外出も可能となり、ご本人、ご家族と相談しながら出かけられるように支援しています。	外出時、自力歩行の方と車いす使用の方がそれぞれ数名、歩行器使用方が半数という状況である。天気の良い日には広い敷地内を散歩したり玄関先のベンチに腰掛けプランターに植えた季節の花を見ながら外気浴を楽しんでいる。5月以降の5類への移行を受け、春には善光寺や小布施まで新緑を楽しみながらドライブに出掛け、秋には城山公園から飯綱の大座法師池まで紅葉見物に出掛ける予定を立てている。今後、コロナの状況を見ながら計画を立てドライブ外出をする予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が必要な物や希望するものがあれば家族に連絡し買わせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの贈り物や手紙が届いた時にはお礼の電話を入れたりお手紙を書いて送付しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室の空間は家庭に近い空間を感じて頂いています。玄関先の壁面コーナーは季節を感じて頂けるように利用者が作成した作品を展示しています。施設内は掃除を徹底して気持ちよく過ごして頂けるように清潔な心がけています。	玄関先には利用者と職員が植えた季節の花々のプランターが置かれている。家庭菜園もあり年間を通して夏野菜から野沢菜まで栽培され、調理に取り入れられている。利用者が寛ぐ共用部分の壁には利用者が制作した作品が数多く飾られている。また、大きな掲示板には「しらかば写真館」と題して行事の際の写真が飾られ活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファーに座り利用者同士馴染みの方々との会話を楽しんで頂けるように配慮しています。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から持って来て頂いた馴染みのものや思い出の写真を飾ったり植物を育てたり本人にあった工夫をして居心地よく過ごせるようにしています。	清掃が行き届き、清潔感漂う居室には洗面台と大きなクローゼットが完備され、暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、衣装ケース、テレビ等が持ち込まれ、壁には家族の写真や自分の作品、職員から贈られた誕生日や敬老会のお祝いメッセージ等が飾られて、利用者は快適な環境の中で自由な日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は本人にわかる目印をつけて自立した生活が送れるように工夫しています。		